

《担当者名》○田村 至 tamurait@hoku-iryo-u.ac.jp 中川賀嗣 太田 亨 下村敦司 橋本竜作 才川悦子 柳田早織

【概要】

大学院では、学問的関心の視野が狭くなる傾向がある。それを避けるために、研究の多様性を理解し、また学問的柔軟性を知ることにより、広い視点でコミュニケーション障害を研究する姿勢を身につける。

【学修目標】

一般目標：コミュニケーション障害に関わる研究の多様性を理解し、また学問的柔軟性を身につけるために、学内外のセミナーや学術集会などで専門領域以外の講演に参加し、その内容について理解できる。

行動目標：

1. コミュニケーション障害について幅広い知識を説明できる。
2. 学問に対する柔軟な適応力を実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～15	コミュニケーション障害	学内外で行われるセミナー、ワークショップ、シンポジウム、講演会、学術集会への出席	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 100%

【教科書】

使用しない。

【備考】

【学習目標】にあるように、特定領域に限らず幅広く聴講すること。

【学修の準備】

予習は、聴講予定の講演内容について、要旨でその概要を理解する。また疑問点などは文献や専門誌で調べておく。この際、質疑応答での質問内容を準備する（80分）。

復習は、講演内容および質疑応答の内容を整理し、レポートとしてまとめる（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

田村 至(言語聴覚士)、柳田早織(言語聴覚士)中川賀嗣(医師)橋本竜作(公認心理師)
才川悦子(医師) 太田 亨(医師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、コミュニケーション障害について講義する。